

里山の自然を観察しよう

里山とは、人々が生活のために手を加えることで維持されてきた山や谷、田んぼを中心とした、人との関わりが深い昔ながらの自然環境を意味しています。雑木林、田畑、小川や池があり、人間を含めてさまざまな動植物が一緒に暮らしていることが大きな特徴です。夏休みの自由研究として、あらためて里山の自然を観察してみましょう。



小川・池にいる生き物



池、流れのある小川などの水辺では、セリなどの植物、幼虫が水中で過ごすトンボなどの昆虫、小魚を狙うカワセミ、メダカなどの小魚やスジエビなど水生生物が見られ、種類によって水辺・水中・水底など、すんでいる環境が異なります。水辺では安全のために、大人の方と一緒に行動し、川岸の植物のあるところから、川底まで観察してみましょう。



セリ(セリ科)
はるの七草の一つです。湿地に群生して生えます。夏には白い花が咲きます。



メダカ(メダカ科)
昼行性で水面近くを群れて泳ぎます。水草のあ



オニヤンマ(オニヤンマ科)
日本最大のトンボで、幼虫は小川や湿地の水中に、成虫は5~9月に川面や林道



田畑にいる生き物



田畑は、里山の中で人間の食べ物作りの舞台でもあります。いろいろな植物が生え、昆虫や野鳥が集まってきます。また、水を引いた田んぼは特有の環境をつくり、その中には多くの水生昆虫やドジョウなどの小魚、タニシ類などがすんでいます。畑の脇道、田んぼのあぜ道、田んぼの水面、そして泥の中などを注意深く観察してみましょう。



タイコウチ(タイコウチ科)
水田やため池などの泥の中に潜み、小魚などをとって食べます。



ヘイケボタル(ホタル科)
成虫は春の終わりから夏にかけて羽化し、オスはメスを探すために発光して飛び回ります。



ドジョウ(ドジョウ科)
水田やため池、それに続く用水路にすんでいます。



きろく 記録を つけてみよう



観察記録用紙の参考例

小川・池の生き物
なまえ(科目) アメリカザリガニ(ザリガニ科)

調査した場所 広島県福山市
調査した日 2012年7月30日
天気(曇り) 気温 25℃ 水温 23℃
どんなところにすんで(はえて)いたか?
田んぼのわきの水の流れにすんでいた。
気付いたこと
大きいのはさみだけじゃなく、小さいのはさみもあった。ひっくり返すとおなかにも足があった。

- 観察記録の書き方や観察の仕方のポイント
- ・見つけた動植物の名前や特徴を、場所ごとに分類して記録しましょう。
 - ・動植物を参考に里山の環境について考えてみましょう。
 - ・動くものを撮影するときは、一人が押さえるなどして、友達と協力しましょう。
 - ・近くのを撮影するときは、接写モードにして撮影しましょう。
 - ・スケッチは対象をよく見て、細かいところまで描きましょう。
 - ・気付いたことは、何でもよいので記録しておきましょう。
- 例えば…
「○○な鳴き声が聞こえた」
「触ってみたら○○な感じがした」
「○○な臭いがした」…など

【里山の自然観察の基本】

服装は、長袖の上着・スボン・帽子・軍手などの手袋・運動靴、田んぼなどの水辺では長靴を履きましょう。持ち物は、カメラ・スケッチブック・筆記用具・捕虫網・虫籠・動植物図鑑・双眼鏡・ルーペなど。

【注意！】
水辺では一人で観察するのは危険です。大人の方と一緒に、またはグループで行動しましょう。また、毒ヘビ(マムシ、ヤマカガシなど)は、田畑にいる生き物と同じ所にいます。もしかまれたら、どんなヘビだったのかを確認して、すぐに病院へ行きましょう。

キッズちやねんじ

スペシャルテーマ
夏休みの自由研究

毎日のごはんがもっとおいしくなる！
「農」と「食」を学ぶコーナーです。

教えてくれた人
JA福山市 神辺グリーンセンター
営農指導員
藤井 真

